

江東区議会議員

鈴木あやこ

江東区議会民政クラブ会派レポート

江東区議会 第3回定例会 新型コロナウイルス関係予算特集号

新型コロナウイルスの感染拡大がまだまだ続いている中、現在は「新しい生活様式」のもとで、経済・生活の立て直しと感染拡大防止の両立が、依然として課題になっています。

イベント開催の緩和など、新たな動きもあり、ウィズコロナ・アフターコロナを意識したまちづくりを行政においても推進していく必要があります。

本レポートでは主に江東区議会における新しいコロナ対策予算・決算審査特別委員会などの議会の動きをご報告いたします。

【鈴木あやこプロフィール】

江東区猿江・潮見を経て豊洲在住。早稲田大学大学院修了。
NTTドコモを経て、2001年初当選、現在3期目。
日本最大の政策コンテスト「マニフェスト大賞」3回受賞。
区議会区民環境委員会・オリンピック・パラリンピック推進特別委員会所属。
区議会民政クラブ 副幹事長。

鈴木あやこホームページ



鈴木あやこYouTubeチャンネル



東京 2020 大会の開催に向けた動きについて

東京オリンピック・パラリンピックは新型コロナウイルスの影響で大会開催が1年延期となり、来年7月24日に開催予定となりました。オリンピック組織委員会では、「大会の簡素化」「感染症対策の徹底」を行い、東京2020大会を開催する方向であることが、10月の区議会オリンピック・パラリンピック推進特別委員会で報告されました。

オリンピック・パラリンピック推進特別委員会では、有明体操競技場を視察。オリンピックでは

体操競技・パラリンピックではポッチャが行われる会場です。大会終了後は、競技場ではなく展示場に転換して利用されます。10月24日には、水泳競技の会場として新規に建設された、辰巳の東京アクアティクスセンターの完成披露式典に参加。



東京アクアティクスセンター
完成披露式典



池江璃花子さんをはじめとした競泳選手のメドレーや、飛び込み、アーティスティックスイミングのデモンストレーションも行われました。

来年の開催に向け、混雑対策や感染症対策など地域

住民の方々の不安を丁寧に解消していくこと、機運を再び盛り上げていくことなど、様々な課題があります。区議会や行政、地域の皆さまと連携し、東京2020大会の成功に向けて取り組んでまいります。



有明体操競技場
視察



鈴木あやこ区政報告座談会「あやこCafe」開催案内

江東区のまちづくりや区議会について、毎月皆様とざっくばらんに対話する区政報告座談会「あやこCafe」今回は久々に、会場開催の予定です。

状況により、zoomによるオンライン開催となることもありますので、詳細はホームページをご確認ください。

●第115回:11月24日(火) 19:00~20:30 豊洲文化センター 第4研修室
(住所:豊洲2-2-18 豊洲シビックセンター8階)



江東区議会令和2年第3回開催報告

江東区議会令和2年第3回定例会は、9月25日～10月23日までの会期で開催されました。文化センターやスポーツ施設の指定管理者の指定を始めとする議案などが審査され、可決されました。

また、新型コロナウイルス対策等の補正予算7億2200万円が予算審査特別委員会で審査され、承認されたほか、令和元年度の決算審査特別委員会も行われました。

次回の第4回定例会は、11月26日から12月15日まで開催される予定です。



江東区議会令和2年第3回開催報告

①新型コロナウイルス感染症対策について (予算審査特別委員会)

冬にかけて、新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行が懸念されている。江東区では、高齢者が10月から、生後6ヶ月～小学校2年生が11月から、インフルエンザ予防接種が無償で受けられるようになった。

【質問】

(1) 今後区民に対するインフルエンザとコロナ対策をどのように行っていくのか。

(2) 新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行に備え、発熱患者の検査体制を整えることが重要であるが、区の見解は？

(3) 保健所の体制も不安材料であるが、今回の補正予算で、電話窓口のコールセンター委託の予算を計上した。

相談件数は7月20日の316件をピークに減少傾向である。

①cocoaの濃厚接触通知などにより、相談・検査件数の増加などの影響はどのくらいあるか？

②コールセンターの民間委託については職員の負担を軽減するためにもう少し早くすべきだと思えるが、見解は？



【答弁】

(1) インフルエンザ予防接種については、重症化が懸念される高齢者と小学2年生までの子どもを無償接種対象とし、接種を強く推奨している。コロナとの同時流行の懸念があるため、全ての世代に対し予防接種を推奨していく。

(2) インフルエンザとコロナの検査体制については、国ではかかりつけ医で行うことを議論している。国や都の動向を注視し、対応する。

(3)

①電話相談件数については9月に入り、100～130件程度で推移しているが、そのうちCocoa関係が3分の1を占めている。

Cocoaに関する検査は区のPCRセンターで行っているが1日平均20件程度であり、PCRセンターでの検査の3分の1から半数を占めている。

②コールセンターの委託については3月から模索していたが、委託を受けていただける事業者がなく、区の職員で対応していた。8月ようやく受託事業者が出てきて8月に3人、9月からは8人の体制で電話を受けている。

②防災訓練について

【質問】

(1) コロナ禍における防災訓練について

新型コロナウイルスの感染拡大により、江東区総合防災訓練が中止になり、町会自治会・災害協力隊などの実施する防災訓練についても中止や規模縮小を余儀なくされている。このことについて、区ではどう把握し、課題認識を行っているか。

(2) 豊洲地区では、LINEを使い、安否確認や避難支援、被災情報登録を行うなど、完全リモートで行う「豊洲スマート防災訓練」が実施された。住民からは好評であり、深川消防署からも「このような防災訓練は必要だ」とのコメントがあった。

江東区総合防災訓練や地域訓練などでもLINEによる防災訓練などICTを積極的にすすめるべきと考えるが、見解は。

【答弁】

(1) コロナ禍の中で、町会自治会・災害協力隊を中心とした防災訓練については、開催を控えるケースが多く、「実施してよいのか」「やめようと思うかどうか」という相談も多かった。

実施の際には三密を避ける、時間短縮や消毒の徹底、体調不良者の参加見直しなどを指導したが、従来実施の防災訓練から大幅に見直しになることから、なかなか実施が難しいケースが多いと認識している。

(2) コロナ禍において、参加者を多く集めての防災訓練が難しい中、LINE等のICTの活用について検討することは必要と認識している。今後活用事例の検証を行いつつ、検討する。

